

歯科形態学入門（松尾雅斗）

Introduction to Dental Morphology (Masato Matsuo)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 歯科形態学
- ③ 歯周組織の微小循環
- ④ インプラントと再生歯科医療
- ⑤ 走査型電子顕微鏡

授業概要

歯科医療の根幹をなすオーラルバイオロジーの基本を形態学の視点から学ぶ。特に歯や歯周・インプラント周囲組織における骨と微小循環に重点をおいて解説する。これらの構造を学び、新たな治療法や材料の開発など臨床歯科医療へとフィードバックできる道筋を立てる。講義は大きく(1)歯と歯周組織の形態、(2)咬合回復に必要な形態、(3)インプラント・歯周組織に関わる形態、(4)再生歯科医療と微小循環の小ユニット順に進行し基礎歯科医学をバックボーンとした歯科医師を育成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

近年の歯科治療においては形態学的知識が必須である。本科目では大学院レベルにおける歯周組織の形態学的知識をもとに再生歯科医療やインプラント周囲組織について理解を深める。これらを微小循環をベースとして新たな歯科医療のバックグラウンドとして修得することを目標とする。

授業計画

- ① 形態学の意義と人体に関する倫理の基本
 - ・日本解剖学会ガイドラインによる研究倫理の基本 4コマ 松尾雅斗
- ② 歯と歯周組織形態学研究論
 - ・歯と歯周組織の構造の基本 4コマ 松尾雅斗
 - ・咬合回復に必要な形態学の基本 4コマ 松尾雅斗
- ③ 再生歯科医療研究論
 - ・インプラント周囲組織の基本構造 6コマ 松尾雅斗
 - ・歯周組織再生の基本構造 6コマ 松尾雅斗
- ④ 微小循環研究論
 - ・微細血管構築と骨組織の解析論 4コマ 松尾雅斗
 - ・生体活性材料と歯科材料の解析論 2コマ 松尾雅斗

教科書および参考書

Fundamentals of Oral Histology and Physiology, AR.Hand and ME. Frank, WILEY Blackwell

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯と歯周組織形態学研究論では口腔解剖学・口腔組織学の基本を確実に修得してあることが求められる。再生歯科医療研究論ではインプラントや歯周組織再生に関する最新知識を広く文献を熟読しておくことが望まれる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 解剖学分野における研究の意義を理解し研究倫理を遵守出来る。
- ② 歯と歯周組織の構造について理解し研究方法を実践出来る。
- ③ 再生歯科医療の基本を理解し研究方法を実践出来る。
- ④ 微小循環の形態と機能を理解し研究方法を実践・応用出来る。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	0%	40%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1%×30回=30%
- ・成果発表は、関連学会において得られた内容を発表する(共同演者を含む)。40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

歯科形態学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。倫理に関しては100%の理解を求める。